鉄鋼新聞

## 仁淀鉄鋼

# 表裏面疵検査装置を導入

## 母材コイルの在庫能力も増強

薄板コイルセンター（CC）の仁淀鉄鋼（本社・大阪市西区京町堀、社長・藤原守氏）は、品質向上や省人化などを狙いに、奈良工場に表裏面疵検査装置を導入する。また、不足していた母材コイル在庫能力を1500㌧増やし、月産量相当となる6500㌧程度にまで拡大する。

検査装置はヒューテック・オリジン製で、5号スリッターラインに導入する。同ラインはノンオイル専用で、表面処理・カラー鋼板およびステンレス・アルミ鋼板を加工している。検査装置は試運転を始めており、3月の本格稼働を予定。カメラは表裏にそれぞれ2台設置する。撮影された画像は現場、工場事務所および本社営業部で確認できる。今後は成果を見ながら、他スリッターラインにも検査装置を導入するか検討する。

これに加え、不足していた母材コイルの在庫能力も拡大する。同社は11年4月に自動刃組装置を備えた2号スリッターラインを稼働。自動刃組装置により生産性が大幅に向上したことから、稼働後40年近い、老朽化した1号スリッターラインを撤去し、在庫能力を拡大する。撤去工事および母材コイル置き場の整備工事は4～6月に実施する予定。

同社はハイカーボン材を中心として、主に自動車関連の需要家にスリット材を供給する奈良工場のほか、グループ会社に長浜鋼業がある。同社の月産量は1300～1400㌧。